

平成26年度 施策評価シート（評価対象：H25年度）

【1. 施策名】

施策コード	131-04	基本施策	障害者（児）福祉の充実	所管部局	保健福祉部
施策名	早期療育体制・教育の充実			主担当課	健康課
				関係部局課	教育委員会学校教育課 保健福祉部障害福祉課
施策の目標	障害の発生要因や健康管理の知識普及、早期発見と早期療育の充実、育成支援体制の整備などにより、障害児の能力と可能性を伸ばせる環境を目指します。				

【2. 施策に取り組む理由】

施策目標に対する市民ニーズの傾向及び、施策目標の達成に向けた市の役割など

自閉症、注意欠陥多動性障害等の児童が年々増加し、保護者に不安やストレスが生じている。早期に把握し、早期に療育につなげるためには、集団スクリーニング、フォローアップ、個別相談等が必要である。保護者には子どもの障害を正しく理解するための相談支援が、児童には障害特性に応じた医療、教育、福祉等の支援が求められている。

【3. 施策指標】

施策指標（成果を示すもの）	単位	基準値 (H22)	実 績					目標値 (H28)
			H24	H25	H26	H27	H28	
1歳6か月児健康診査受診率	%	94.1	94.5	95.0	/	/	/	100
指標の定義	目標値のねらい（設定根拠・算定方法）							
障害の早期発見と早期療育のための乳幼児健康診査（1歳6か月児）の受診率	発達障害などの早期発見のために重要な時期である1歳6か月の健診であり、目標値は100%とする							
施策指標（成果を示すもの）	単位	基準値 (H24)	実 績					目標値 (H28)
巡回相談員の派遣回数	回	665	665	735	/	/	/	700
指標の定義	目標値のねらい（設定根拠・算定方法）							
学校への巡回相談員の派遣回数	校内支援体制の整備のための臨床心理士等専門知識を有する巡回相談員の派遣回数を指標とする							
25年度の取組内容実績	妊婦健診（基本健診の受診率85%）、乳幼児健診（4か月・1歳6か月・3歳児健診の受診率96.1%）、などを通じて、胎生期から乳幼児期まで一貫した疾病、障害等の予防と早期発見を実施し、乳幼児健診などを通じて把握した発達の遅れが懸念される子ども（729名）とその保護者に対して、個別相談、経過観察、乳幼児発達健診を実施した。 学校への特別支援教育支援員の配置と巡回相談員の派遣等による学校への支援体制を整備・推進した。 自立サポート事業などによる保護者の負担軽減と療育支援を実施した。							

【4. 総合評価】

総合評価（目標値に向けて）	概ね順調
評価の理由・説明等	
適応性 市民ニーズや社会経済状況の変化に柔軟に対応しているか	子どもの発達障害の兆候を早期に捉えることを目的に新たなスクリーニング手法M-CHATを導入するため、現在、職員研修等スクリーニング後のフォローアップ体制の整備の準備を進めている（H26年12月の乳幼児健診から導入予定）。
達成度 施策の目標達成に向けて順調に進んでいるか	1歳6か月健診の受診率は概ね目標どおりであり、H25年度、同健診等を通じて、身体発育や精神発達の遅れが認められ、経過観察が必要とされた乳幼児は729名あり、そのうち83人を「遊びの教室」、59組を「療育相談」、151人を「保育園・幼稚園等施設訪問」などでフォローアップし、適正な療育へつなげている。
事業の成果等 施策を構成する事務事業は目標を達成しているか	母子保健、学校教育、障害福祉の各分野の各事業は概ね目標を達成している状況である。また、子どもや保護者への切れ目のない支援を目的に平成26年度「こども未来部」が創設された。

【5. 今後の展開】

課 題		課題解決に向けた具体的な取組
1	乳幼児期から小中学校まで、健康課、保育課、子育て支援課、障害福祉課、学校教育課等による継続的かつ一貫した支援	従前に比べ、こども未来部創設に伴い子育て支援課を中心に各課が連携しやすい環境となり、保健センターにおいて地域発達支援会議を開催するなど、発達支援あんしんネットワーク事業がスタートした。
2		
施策展開の方向性 (H26年度以降)		こども未来部への保健所健康課母子保健係の移管について検討中だが、人的制約、設備的制約のなかでどのような体制で各種母子保健事業を実施することが合理的、効果的かつ市民サービスの向上につながるか子育て支援課、職員課と協議を進める。

【6. 施策を構成する主な事務事業】

番号	事務事業名 [事業区分] 担当課名	事務事業の状況									
		事務事業の概要					事業の取組実績・成果				
1	乳幼児健康診査 [サービス提供事業] 健康課	事務事業の概要					事業の取組実績・成果				
		身体発育及び精神発達の面から重要な乳幼児期に健康状態を把握し、疾病、障害の早期発見・早期治療を促進する。					受診時期に里帰り中などの理由で、ごく一部健診を受けない場合があるが、集団健診において95%以上医師の診察を受け、必要な場合は精密健康審査受診票を交付し、対象乳幼児の健康保持、疾病等の早期発見に寄与している。				
		事業の分析結果					年度別事業費（千円） (H26は予算額)				
		達成(進捗)状況の評価	必要性	妥当性	有効性	効率性	今後の方針	H23	H24	H25	H26
	B	B	A	B	B	継続	135,330	135,328	134,069	133,341	
2	妊婦健康診査 [サービス提供事業] 健康課	事務事業の概要					事業の取組実績・成果				
		安心して出産を迎えるため、基本健診14回、追加検査（血液検査）5回、超音波検査4回について、妊婦に受診票を交付し、委託契約した医療機関、助産所において健診を実施する。					目標（基本健診受診票交付数から、人口動態統計による早期出産分を除いた数）に対し、およそ8割程度の受診率である。（ただし、早期の流産や転出による未受診数は、把握できていない。）				
		事業の分析結果					年度別事業費（千円） (H26は予算額)				
		達成(進捗)状況の評価	必要性	妥当性	有効性	効率性	今後の方針	H23	H24	H25	H26
	B	A	A	A	A	継続	364,791	356,670	339,291	365,399	
3	乳幼児健全発達支援 [サービス提供事業] 健康課	事務事業の概要					事業の取組実績・成果				
		保護者の育児不安を解消し、将来の二次的な問題を予防するため、個別相談、経過観察、集団での課題（あそび）の場での行動特性に応じた対応方法の助言、小児神経科医師による診察、指導、臨床心理士、言語聴覚士、作業療法士、発達相談員等による療育及び相談の実施。					乳幼児健診などにおいて把握した729名の子どもと保護者に対し、乳幼児発達健診、相談、経過観察、療育等を実施した。				
		事業の分析結果					年度別事業費（千円） (H26は予算額)				
		達成(進捗)状況の評価	必要性	妥当性	有効性	効率性	今後の方針	H23	H24	H25	H26
	B	A	A	B	B	継続	60,287	60,151	59,162	61,081	
4	特別支援教育推進事業 [サービス提供事業] 学校教育課	事務事業の概要					事業の取組実績・成果				
		障害等のある児童生徒が、教育的ニーズに応じた適切な支援を受けられるよう、教育支援委員会で障害に応じた適切な教育の場を判断する。また特別支援教育支援員の配置、巡回相談員の派遣等と併せ、学校管理職及び特別支援教育コーディネーターを中心に学校内の支援体制充実を図る。					特別支援教育支援員は、学校の実態に基づき目標を上回る人数を配置したが、支援員と教職員が連携し、学校全体で行う支援体制にまだ課題がある。また、巡回相談員の派遣は、目標の9割の学校から依頼があり、校内支援体制を整えるための相談を実施した。				
		事業の分析結果					年度別事業費（千円） (H26は予算額)				
		達成(進捗)状況の評価	必要性	妥当性	有効性	効率性	今後の方針	H23	H24	H25	H26
	B	A	A	B	B	拡充	108,425	108,675	109,408	117,385	

